

2020 年度
事業報告書

公益財団法人 小笠原協会

第1 運営の概要

1 運営の概要

(1) 総括

令和2年度は新型コロナウイルス感染が世界的に大流行し、我が国においても令和2年4月に緊急事態宣言が発令される事態となった。

5月末には宣言解除となったものの、新型コロナウイルスの感染拡大がわが国の社会経済に多大な影響を及ぼした。小笠原も例外ではなく、小笠原への渡航者が激減し、島の経済や島民生活に大きな打撃となった。

ウイルス感染は令和3年になっても治まるどころかますます感染が拡大し、本年1月には再び緊急事態宣言が発令され、東京を含む一都三県では3月まで延長された。

このような厳しい状況のなかで、協会の運営も多大な影響を被り、昨年3月から今年3月までの理事会、評議員会は感染拡大防止のため一堂に会しての会議は全て中止せざるを得ず、書面評決によるものとなった。

さらに、毎年の協会の最大のイベントである、小笠原訪問交流ツアーも中止の止むなきに至った。また、小笠原への渡航が自粛されたこともあって、運賃割引を目的とする賛助会加入者が減少し、これが協会の歳入の減少となった。

令和2年度は、当協会にとって規制の多い大変に厳しい1年であったが、このようななかであって一部の事業は中止せざるを得なかったものの、基本的には当初計画通り概ね着実に運営された。

(2) 公益目的事業の取組み

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により、当協会の公益目的事業も大きな影響を被らざるを得なかったが、協会の基本的役割である、旧島民の帰島支援となる機関紙発行、機関誌発刊(特集号)、ホームページによる小笠原情報の発信を着実に実施することができた。

とりわけ、未だ帰島が叶わない硫黄島の戦前の文化、社会等を風化させることなく今後にも社会に発信していくために、硫黄島旧島民の証言集(第3回)を機関誌特集号として発刊した。

また、恒例の小笠原訪問交流ツアーは中止の止むなきに至ったが、代替策として「おがさわら丸乗船特別割引」を企画し、令和3年1月の3便について運賃割引個人ツアーを実施した。協会の実施している公益目的事業の内容については下表の通りである。

| 事業区分 | 事業の目的及び事業項目 |
|---------------------------|--|
| (公1事業) 帰島促進、振興開発普及啓発事業 | <p>小笠原諸島が自立的発展を成し遂げるためには、「小笠原諸島振興開発特別措置法」に基づく「小笠原諸島振興開発計画」を着実に進める必要がある。そのためにも、今後とも、多くの国民の協力及び支援が求められる。当協会の機関紙やホームページによる情報提供は、これらに対処、貢献するものである。</p> <p>ア 機関紙等刊行物 イ ホームページ</p> |
| (公2事業) 教育、経済等推進事業 | <p>小笠原諸島が自立的発展や住民の生活の安定等を図るためには、様々な形で多くの国民の協力及び支援が必要である。また、当協会も小笠原諸島に係る諸事業を実施し、小笠原諸島の産業・観光等経済効果の向上や地域活性化に寄与又は支援する。</p> <p>ア 小笠原訪問交流ツアー(令和2年度は中止) イ 旧島民及び賛助会員に対するおがさわら丸の運賃割引証明書の発行 ウ 国及び自治体や諸団体が実施する事業への協賛等 エ 意見交換会等による情報収集 オ 自然学習会(検討)</p> |

2 組織概要

(1) 公益財団法人小笠原協会の機構 (令和3年3月31日現在)

| 機 関 | 人 称 | 定 数 | 現員数 | 摘 要 |
|------------|------|--------|-----|---------------|
| 1. 議決・監督機関 | 評議員会 | 10~15人 | 12人 | |
| 2. 執行機関 | 理事会 | 7~10人 | 9人 | 会長、常務理事を含む |
| | 会長 | 1人 | 1人 | |
| | 常務理事 | 1人 | 1人 | |
| | 事務局 | — | 2人 | 外に週1~2日臨時職員3人 |
| 3. 監査機関 | 監事 | 2~3人 | 2人 | |
| 4. その他 | 顧問 | — | 14人 | 内特別顧問1人 |
| | 参与 | — | 5人 | |

第2 公益目的事業

1 事業総括

(1) 事業費内訳

| | |
|----------------------|-------------|
| 公1事業 帰島促進、振興開発普及啓発事業 | 9,981,408円 |
| 公2事業 教育、経済等推進事業 | 1,898,503円 |
| 計 | 11,879,911円 |

(2) 主な実施事項

【公1事業 帰島促進、振興開発普及啓発事業】

本事業には、機関紙等刊行物事業とホームページ事業がある。

小笠原諸島が自立的発展を成し遂げるためには、今後とも、多くの国民の協力及び支援が必要である。当協会の機関紙・誌の発行及びホームページによる情報提供は、これらに対処、貢献するものである。ただし、ホームページ事業の内容は、当協会の組織や運営等に関すること、事業計画及び事業実施報告、予算及び決算等に関することなど帰島促進に関わる情報以外のものも掲載。そのため、ホームページの一部の経費は管理費から支出している。

ア 機関紙等刊行物

機関紙等の刊行は、小笠原諸島振興開発事業や小笠原諸島に係る諸情報を、旧島民及び小笠原諸島の島民並びに全国の賛助会員等に提供することで、旧島民の帰島促進及び定着に貢献するとともに、小笠原諸島に係る普及啓発や宣伝、産業・観光等地域経済効果の向上に寄与し、地域活性化の推進を支援するものである。

[令和2年度の実績]

① 機関紙「小笠原」

〈各号共通事項〉

・規格・発行部数等：

A3版、4～6頁、4,000部、年4回発行

・各号に掲載される記事：

小笠原諸島に関する諸情報／小笠原村の世帯数・人口及び気象状況／
賛助会費・寄付金の氏名／小笠原航路時刻表、訃報など

・配付先：本邦在住の旧島民約600部、小笠原村民約1,600部、賛助会員約1,500部、
関係行政機関約200部、事務局約100部 計4,000部

[2020 年度発行各号の内容]

| 発行日 | 主な内容 |
|-------------------------------|--|
| 令和 2 年 8 月 1 日 第 229 号 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 2 年度小笠原諸島振興開発事業費予算（東京都）について ・ 小笠原協会役員会開催 ・ 【新型コロナウイルス感染症対策支援寄附金の募集】 小笠原村 ・ 【小笠原村における新型コロナウイルス感染症への対応】 小笠原村総務課 ・ 小笠原での感染症対策 ・ 東海汽船 3 代目「さるびあ丸」が就航 ・ 2020 年度小笠原訪問・交流ツアー延期 ・ 小笠原協会の役員等の紹介 ・ 賛助会員ありがとう ・ 賛助会員ご加入および更新のお願い ・ 人口・気象、訃報 ・ 故河野博夫氏の訃報に接し ・ 小笠原航路時刻表（令和 2 年 8 月～令和 2 年 1 2 月） |
| 令和 2 年 10 月 1 日 第 230 号 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 9 回小笠原航空路協議会の開催について ・ 新型コロナウイルスの影響を踏まえた観光等産業振興について ・ 小笠原研究紹介シリーズ（3）小笠原の水循環に関する研究 ・ 新企画「私と小笠原」第 1 回 ・ 「おがさわら丸乗船特別割引企画」（令和 2 年度 小笠原訪問・交流ツアー代替企画） ・ 令和元年度 第 2 0 回小笠原訪問・交流ツアー アンケート結果 ・ 小笠原訪問交流ツアー訪問記（2019 年 10 月 31 日～11 月 5 日） ・ 賛助会員ありがとう ・ 賛助会員ご加入および更新のお願い ・ 人口・気象、訃報 ・ 新刊紹介（母島 風が伝えた物語） ・ 小笠原航路時刻表（令和 2 年 1 0 月～令和 3 年 3 月） |
| 令和 3 年 1 月 1 日 第 231 号 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 新年のご挨拶（当協会会長、東京都知事、小笠原村長） ・ 小笠原村での輸血医療体制の取組 ・ 小笠原諸島の聳島列島から新種の植物発見 ・ 全国硫黄島島民の会が開催されました ・ 新企画「私と小笠原」第 2 回 ・ 「小笠原」特集号 65 号「硫黄島に関する聞き取り調査記録③」を発刊 ・ 小笠原産・特産物（2 点）のご紹介 ・ 賛助会員ありがとう ・ 賛助会員ご加入および更新のお願い ・ 人口・気象、訃報 ・ 故小笠原愛作さんを偲んで ・ 小笠原航路時刻表（令和 3 年 1 月～令和 3 年 6 月） |
| 令和 3 年 4 月 1 日 第 232 号 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 小笠原の農業の歩み（東京都小笠原支庁） ・ 小笠原村での輸血医療体制の取組み第四回（最終回） ・ 新企画「私と小笠原」第 3 回 ・ 「北方領土返還要求全国大会」開催される ・ 硫黄島戦没者 2 遺骨 DNA 鑑定で身元判明 ・ 小笠原訪問記 2 名（1 月実施「おがさわら丸乗船特別割引企画」参加者） |

| | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度 小笠原訪問交流ツアー予告 ・「おがさわら丸」ドック入り、さるびあ丸が代替運航 ・賛助会員ありがとう ・賛助会員ご加入および更新のお願い ・人口・気象、訃報 ・小笠原航路時刻表（令和3年4月～令和3年9月） |
|--|--|

② 機関誌「特集号小笠原」

- ・規格、発行部数等：B5版、80～150頁程度、4,000部、年1回発行
- ・主な内容：小笠原諸島に関する調査研究、普及啓発及び宣伝等、その時々々の時宜を得た素材や情報、記録として残す必要がある素材など
- ・配付先：機関紙「小笠原」と同じ

| 発行日 | 主な内容 |
|-----------------------------|--|
| 令和2年 10月1日 第65号 発刊 | <p>特集第65号「硫黄島に関する聞き取り調査記録(3)」</p> <p>本書は、返還50周年後の新たな幕開けとして、改めて歴史の風化を防ぎ、歴史の証言を収集、発信することの重要性を認識し、この実現のために刊行する。</p> <p>小笠原諸島からの強制疎開から76年を経た今日、当時10歳の子供も86歳になる。強制疎開時の記憶を留めている最後の世代であり、この方達の証言の収集が急がれている。</p> <p>今年のコロナウイルス禍により、証言取材の機会が困難であったが緊急事態宣言前に取材した硫黄島旧島民4名の方の聞き取りを取りまとめ10月に発刊した。</p> |

イ ホームページ

ホームページには小笠原諸島の歴史や地理的・自然的特性に即した情報、小笠原諸島振興開発事業や産業・観光等に関する情報を掲載し、小笠原諸島に係る普及啓発、宣伝に努めて旧島民の帰島促進や訪島者の増加に貢献するとともに、産業・観光等の経済効果の向上に寄与し、地域活性化の推進や小笠原諸島の自立的発展を支援する。

また、当協会の組織・運営及び各種事業情報を公表し、本邦在住の旧島民や小笠原諸島に関心を持つ不特定多数の人々に対し公開している。

ホームページアドレス：<http://ogasawarak.org/>

〈主な情報〉

ホームページに掲載している主な情報は、次のとおりである。

- ・小笠原諸島に関する各種情報
- ・小笠原諸島世界自然遺産情報
- ・当協会の賛助会員情報

- ・当協会の諸事業情報（小笠原訪問交流ツアー、機関紙の発行、小笠原航路の運賃割引証明書発行、協賛等の諸情報など）
- ・当協会の組織や制度等情報（定款、規程、事業、財務等）など

【公2事業 教育、経済等推進事業】

本事業には次のものがある。

- (1)小笠原訪問交流ツアー
- (2)旧島民及び賛助会員に対するおがさわら丸の運賃割引証明書の発行
- (3)国及び自治体や諸団体が実施する事業への協賛等
- (4)意見交換会等による情報収集
- (5)自然学習会（検討）

小笠原諸島が自立的発展や住民の生活の安定等を図るためには、様々な形での本邦在住の多くの国民の協力及び支援が必要である。また、当協会も小笠原諸島に係る諸事業を実施し、小笠原諸島の産業・観光等経済効果の向上や地域活性化に寄与又は支援するものである。

ア 小笠原訪問交流ツアー

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大を予防するため、関係機関等との協議のうえ、催行を中止した。本事業中止の代替企画として、村及び小笠原海運と協議のうえ、「おがさわら丸乗船特別割引」を企画し、旧島民・賛助会員を対象に割引料金での小笠原訪問個人ツアーを実施した。実施期間は令和3年1月竹芝発の6日(水)便、12日(火)便、18日(月)便の計3便で、参加者は7人であった。

イ 旧島民及び賛助会員に対するおがさわら丸の運賃割引証明書（賛助会員証）の発行

本事業は、当協会と小笠原海運株式会社との「東京～小笠原航路乗船券の割引に関する覚書」により実施しているものである。旧島民の里帰り経費の軽減によって里帰り回数の増加と、また、これを賛助会員に広げることで訪島者の増加を図り、島民との交流や産業・観光等村の経済効果の向上に寄与するなど地域活性化に貢献するものである。なお、平成29年8月1日から賛助会員証を発行し、それをもって割引証明書に替えている。

〈割引証明事務〉

小笠原への里帰り又は訪島するため往復の乗船券の予約をした旧島民又は賛助会員について、当協会保管の名簿で旧島民であることを確認し、旧島民には「おがさわら丸の運賃割引証明書」を発行している。賛助会員には「賛助会員証」の発行をもって割引証明に代えている。平成28年の新船就航後の運賃割引率は、1等の割引は廃止され、特2等が2等と同様の2割引きになった。なお、旧島民名簿の確認は、「小笠原関係実態調査元居住者名簿」に基づいて実施している。

[旧島民及び賛助会員割引利用実績]

令和2年4月1日から令和3年3月31日までの、小笠原航路の割引利用者は、賛助会員が286人、旧島民の方の割引利用者数は28人で合計314人であった。

なお、平成27年度604人、28年度381人、29年度495人、30年度692人、令和元年度611人であった。本年度は対前年比5割ほどの減少、新型コロナウイルスの影響と思われる。

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 計 |
|------|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 賛助会員 | 0 | 4 | 5 | 56 | 27 | 38 | 37 | 24 | 34 | 19 | 21 | 21 | 286 |
| 旧島民 | 2 | 0 | 2 | 1 | 7 | 5 | 4 | 2 | 2 | 2 | 0 | 1 | 28 |
| 計 | 2 | 4 | 7 | 57 | 34 | 43 | 41 | 26 | 36 | 21 | 21 | 22 | 314 |

ウ 国及び自治体や諸団体が実施する事業への協賛等

国及び自治体や諸団体が実施する行事又は催し物等に対して協賛等を行うことにより、産業・観光等経済効果の向上と地域活性化の推進を支援する。協賛等を行う行事又は催し物等は、旧島民の帰島促進・定着、小笠原諸島に係る普及啓発・宣伝、小笠原諸島における教育、経済・産業等へ貢献するものであることが要件である。

協賛等には、協賛金の支出により必要経費の一部を助成するものと、主催・共催・後援等への当協会名義の使用許可とがある。

エ 意見交換会等による情報収集

小笠原村で実施する当協会役員及び在島評議員・理事等と島民との意見交換会において、小笠原諸島振興開発事業や産業・観光等に関する現場の意見・要望等を取りまとめて国や東京都など関係機関に対する要請等に活かすとともに、当協会の今後の運営の参考に資し、小笠原村の産業・観光等経済効果の向上と地域活性化の推進を支援するものである。

また、硫黄島墓参及び遺骨収容等については、国、東京都及び小笠原村の情報を機関紙等で提供するほか、当協会役員や職員が墓参等に参加して硫黄島の現状を把握し、情報収集及び情報提供の質の向上に努め、帰島できない旧島民に対しきめ細かな対応を図る。

① 役員等及び島民との意見交換会の実施

令和3年1月の「おがさわら丸乗船特別割引企画」で訪島した会長等の協会役員等が当協会現地役員と意見交換を父島において実施した。

- ・令和3年1月14日(木)12:00～14:00

父島在住役員(評議員)と会長、常務理事、事務局長

- ・令和3年1月16日(土)9:00～10:30

父島在住旧島民(帰郷促進連盟関係者)と会長、常務理事

・令和3年1月16日（土） 11：00～12：30

「小笠原村在住硫黄島旧島民の会」会長、事務局長と会長、常務理事

② 硫黄島遺骨収集実施団体等との意見交換

・令和3年3月26日（金） 18：00～20：00

厚労省関係の遺骨収集団体及び硫黄島旧島民の会等と会長、事務局長

③ 全国硫黄島島民の会参加による情報収集

日 時：令和2年11月29日(日) 川崎日航ホテル 協会参加者 4人

コロナ禍の中、旧島民関係者等50人の参加があり、定期総会での事業報告の後、小笠原諸島・硫黄島関係者合同慰霊祭、旧島民相互の交流会が行われた。交流会では、旧島民とその子孫、関係者による和やかな懇親、交流の場となった。

第3 組織運営実績

1 役員会議等の開催

(1) 理事会

| 回 | 開催月日 | 議 題 等 |
|-------------|----------------|---|
| 第1回 書面評決 | 令和2年 5月28日 | 1. 2019年度事業報告の承認について 2. 2019年度収支決算書の承認について 3. 「顧問選任（秋山俊行氏）」の承認について 4. 「事務局長選任（齋藤邦雄氏）」の承認について 5. 報告案件「会長・常務理事の執務状況」の報告について |
| 訂正報告 | 令和2年 9月28日 | 1. 「令和2年度 事業計画・予算案」に関する訂正報告 |
| 報告事項 | 令和2年 10月27日 | 1. 評議員 退任（石橋浩一氏）新任（若林和彦氏） |
| 第2回 書面評決 | 令和3年 3月22日 | 1. 令和3年度事業計画書及び収支予算書の承認について 2. 報告事項「会長及び常務理事の執務状況報告」 |

(2) 評議員会

| 回 | 開催月日 | 議 題 等 |
|-------------|---------------|---|
| 第1回 書面評決 | 令和2年 6月29日 | 1. 2019年度事業報告の承認について 2. 2019年度収支決算書の承認について 3. 報告案件 ① 「顧問選任（秋山俊行氏）」 ② 「事務局長選任（齋藤邦雄氏）」 ③ 「事業の取組報告」 |
| 報告事項 | 令和2年 9月28日 | 1. 令和2年度事業計画書及び収支予算書等 |

| | | |
|----------------|----------------|---|
| | | 2. 報告事項「会長及び常務理事の執務状況報告」 |
| 臨時評議員会 書面評決 | 令和2年 11月16日 | 1. 評議員の選任について(若林和彦氏) 2. 報告案件 評議員の退任について(石橋浩一氏) |

2 事務局

(1) 会計システムの活用

平成29年5月から会計処理方式を変更し、平成30年度は会計入力の移行により元帳を作成した。令和2年度以降は、会計諸表をシステムで作成している。

(2) 平成29年度に個人会員管理を台帳管理から、データベース管理に移行した。また、法人会員管理のデータ化を図った。

(3) 協会賛助会員及び旧島民登録者の拡充

機関紙、ホームページ等により賛助会員の新規加入や旧島民の登録を呼び掛けている。

(4) 協会資料の整理保全

資料担当を設置し、協会の過去の資料の整理保全に努めている。

(賛助会員数の推移)

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、新規加入者数は前年度に比べ半減している。今後は新規加入者数の回復と継続会員の定着、法人会員の継続が課題である。

なお、法人会員数については、賛助会員規程に基づき機関紙への広告掲載法人を法人会員として参入した。

| 年度 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 元 | R2 |
|------|-------|-------|-----|-------|-------|-------|-----|------|------|------|-----|
| 新規加入 | 388 | 424 | 240 | 289 | 243 | 247 | 91 | 224 | 233 | 265 | 123 |
| 継続個人 | 814 | 990 | 651 | 1,024 | 1,010 | 814 | 832 | 979 | 879 | 818 | 817 |
| 法人 | 24 | 24 | 25 | 24 | 25 | 27 | 27 | 28 | 28 | 46 | 47 |
| 計 | 1,226 | 1,438 | 916 | 1,337 | 1,278 | 1,088 | 950 | 1231 | 1140 | 1129 | 987 |